

# ダイアログの場のつくり方

## ネットワーク工程表

今回はタイムテーブルの別バージョンとして、ネットワーク工程表をご紹介します。

ネットワーク工程表は、僕が建築をしていた頃に使っていたもので、ガントチャートと呼ばれるよく見かける工程表と違って、丸と矢印をベースに流れを描いたもので、個人的には前回ご紹介したタイムテーブルよりも遊びがあって好きです。

仲間とダイアログしながら学び合う、そんな環境をつくりたい人が1歩を踏み出せる、この資料がそんなきっかけになれば嬉しいです。

今回ももうひとつ、前回のタイムテーブルと同じ内容のものをネットワーク工程表として作成した資料がありますので、それを参考にしながら読んでみてください。手書きなので読みにくいとは思いますが。

書き込んだ内容は同じく「参加者」「ゴール」「目的」「テーマ」「オープニング」「STEP.1」「STEP.2」「STEP.3」「エンディング」の9つの付箋に書き出したものです。今回もひとつの表に当てはめて、時間の流れを描いていきます。

ちなみに、別に無理に新しいことをやる必要はなくて、自分に合ってるものを活用すればいいと僕は思っています。ただ、存在を知っているのと知らないのでは選択肢の幅が全然変わってくるので、そんなつもりでふれてみてください。

まずはネットワーク工程表を描く紙を選択します。エクセルなどを使って描くことは出来るのですが、僕はいつも手書きで描いています。短時間の時はA5サイズに描く時もありますし、長くてもA4サイズの紙でまとめたりしています。

紙を横長に置いて描き始めるのですが、前回のタイムテーブルよりは全体像を把握していないと描きにくいのがひとつの特徴です。丸と矢印と文字だけで成り立っているのですが、丸の数が何個あるのかわからないと、バランスを気にする人には下書き⇒清書と2段階で作成することになります。

「目的」「ゴール」「参加者」「テーマ」は、左上もしくは上側にまとめて書き込んで目につきやすいようにします。これらが目つきやすければ、もし途中で何らかの判断が必要な時に、その場の目的などを確認しやすいので。あと、必要ならここに失敗の基準も書き込んでください。

続いて、サークルの中に「準備」「オープニング」「STEP.1」「STEP.2」「STEP.3」「エンディング」「片付け」の内容を書いて、時間と詳細もその近辺に書き込みます。描き込む量は、このネットワーク工程表を使う人が、実際にダイアログの場をつくっている中で必要に応じて理解できる程度で大丈夫です。

添付の資料は、タイムテーブルと同じ分だけの内容を描いていますが、「準備」「オープニング」「STEP.1」「STEP.2」「STEP.3」「エンディング」「片付け」の順で大きな目を描いて、補足的にその周辺に詳細や時間を描くというのも使う人が理解できればそれで大丈夫です。

そしてそのサークルを時間軸に沿って矢印でつないでいきます。矢印はサークルの内容が終了したら次へ進むという意味で、全体の進行のつながりを表します。なのでもし矢印が複数入っている場合、今回でいうと休憩後のダイアログのところですが、その時はふたつのサークルの内容が終了しないと次に進めないという意味になります。

場の仕掛けが複雑になればなるほど、複数の矢印が重なっていき、ダイアログの場を促していく人と、流れに沿ってワークの準備をする人との行動を別々に描きやすくなります。

これで基本的には完成です。あとは、必要に応じて補足などを加筆したりして、使いやすい状態にしていきます。絵心がある人ならもっと遊べるでしょうし、何枚も印刷する場合は別として、前回のタイムラインも今回のネットワーク工程表も色を使ってカラフルにすると、手元にある資料から元気をもらえるかもしれません。

それと、ダイアログの場を促すための資料として使う以外に、落書きしながら全体の流れを描くために使うのもいいかと思います。付箋を使うのは整理しやすくするためであり、あとで別の様式に清書するのであれば、ラフ画を描くように全体の流れを描くのもいいと思います。

僕は約8年ほどファシリテーションを学びながら生きています。その中で思うのは、場を促す人が楽しめるものが1番良い、ということです。中にはとても深刻なダイアログの場もあるでしょうが、それでも未来に対する希望まで失ってしまっ  
ては、お互いの想いを尊重し合える場にはならないでしょう。

ダイアログの目的は、自分の意見を通すためでも、相手に従うことでもありません。とにかくお互いの想いを探求し発見すること。そうすることで、妥協ではない新しいアイデアにも出逢えます。

そんなことを暗闇の中で行うのか、それとも気持ちが弾むような場で行うのか。もし、僕ならば滞った想いが前に進んでいくことを願って場をつくります。なので最低でも行き先の輝きは場で共有したいです。

でもその場に参加する人は、今のままでも良いですし、変わっても良いですし、それは参加者自身の選択ですから。「すべてOK」な場でダイアログを促していきま  
す。

もし同じような場をつくりたい人がいればもう少し聴いてください。滞った  
想いが前に進めるような「すべてOK」の場をつくるためには、その場を促す本人が  
自分に対しても同じように「すべてOK」と思ってあげないと、思えない分だけ自然  
と参加者にその感覚が広がっていきます。

だからこそ、準備の段階から広い思考でたくさんの選択肢を持って、楽しく準  
備してみてください。本番に強い人もいるでしょうが、基本的には準備で楽しくな  
いと、その場も楽しく過ごせないものだと思いますので。

今回はネットワーク工程表についてお話ししてきました。次回はダイアログの  
場で使えるワークのお話をします。

今回の内容に関して「こんな風に活用してみた」とか、「もっと具体的なこ  
とが聴きたい」とか、もしくは今回の内容で感じたことがあれば、「みんなのダイ  
アログ」に投稿してください。

そこで学び合いながらダイアログしていきましょう。

みんなのダイアログ

<http://cobaken.net/webdialog/index.php?qa>